



社会福祉法人をつなぐとなみ野 〒932-0833 小矢部市綾子 5598 番地 TEL・FAX (0766) 68-3822  
e-mail: tonamino@bz03.plala.or.jp http://www.tonamino.or.jp/

## ～理事長交代のご挨拶～



退任に当たって

特別顧問 穴田 清

去る六月の役員会において長年勤めてきた理事長職を退任いたしました。法人設立以来今日まで、行政当局並びに関係機関の皆様には多大なご支援とご指導を賜りましたことに対し、深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。今後は一役員として、手をつなぐとなみ野の更なる発展に微力を尽くす所存です。

永年、家の中に閉じ込められて暮らしていた障害者が、家から出て施設や作業所で生活ができるようになってから五十年余り、その間、施設の充実や障害者に対する理解啓発活動などに取り組んできました。

お陰様で障害者総合支援法や障害者差別解消法・障害者虐待防止法等、様々な法律や制度が成立し障害者を取り巻く環境はよくなりました。

しかし、昨年の七月に神奈川県相模原市の津久井やまゆり園で起きた「障害者は生きる価値がない」と言って理不尽にも十九名の尊い命を奪ったあの悲惨な障害者殺傷事件、そして尊い命を奪われた人たちの名前を实名で公表することなく匿名で報道されたことに深い悲しみと強い憤りを感じています。

なぜ、健常者同様实名で発表できなかったのか、知的障害者がいることが恥ずかしい事なのか？知的障害者が施設に入っている事が不名誉なことなのか？

法律や制度の成立が充実すると共に、全ての人々が障害者を正しく理解し、受け入れていただける日の来ることを願って止みません。

新任のご挨拶

理事長 尾崎 順子



青空に入道雲、夏も本番となりました。皆様には益々ご健勝のことと存じます。日頃より当法人の事業運営にご理解ご支援を賜り誠にありがとうございます。

さてこの度、穴田前理事長の後を引き継がせていただくことになりました。穴田前理事長には生涯現役で手をつなぐとなみ野を牽引していただきたいと願っておりましたが、辞意は固く、役員会等での協議を経て六月二六日に就任いたしました。

利用者 145 名、職員 84 名の命と生活を護るという重責を担わせていただくこととなりその責任の重さを痛感しているところでございます。

元より浅学薄才の身ではありますが、関係各位のご指導、ご支援をいただきながら、法人設立当初の思いや情熱を忘れることなく「共に生き 共に働き 共に暮らす」法人の理念の下、誠心誠意努めさせていただく所存でございます。

障害者総合支援法の見直し、障害者虐待防止法・差別解消法の制定等、知的障害を持つ人々への理解は徐々に浸透しつつありますが、高齢化が進む中、まだまだ取り組むべき課題は山積しております。将来展望を見据えつつ、まずは、利用者の皆様には安全安心を第一に「本当に幸せと感じられる支援」を、職員の皆さんには誇りと生き甲斐を持って働ける職場環境づくりを、そして地域の皆様に愛される法人となりますよう努めて参りたいと存じますので何卒よろしくお願い申し上げます。



言葉のかけはし  
表現する力  
絵画教室ボランティア 前田 昌子様

私はボランティアとして月に二回あけぼの第一と第二の絵画教室に伺っています。長年続いているのは毎回発見と感動があるからです。上手に話せなくてもアートで表現すると「えっこの人が...」と素敵な作品に驚かされます。家族や職員も知らない意外な面を発見することができます。だれでも表現する力があるのです。こうした知的障害をもつ作家を中心とした「アールブリュット」の活動は近年、全国的にも広がっています。先日小矢部の仲間たち展にも出品され来場者には「個性豊かでエネルギーがすごい。元気になる。」とみなさんの作品に感動していただきました。

私は十年前に臨床美術士となりあけぼの第二では臨床美術を取り入れています。臨床美術とは上手下手関係なく五感を使ってだれもが楽しみながら作品をつくることのできるアートの一つです。だから自分は絵が苦手と思っている人ほど体験していただきアートの楽しさを感じてもらいたいと思っています。

誰でも感じれば描けるのです。表現する力はあるのです。アートには人の心を動かす不思議な力があります。上手下手とは頭で考えた概念ではないのです。表現方法も人それぞれだからアートはおもしろいのです。

それぞれの個性が生かされ、輝くように、サポートできればと思っています。

毎回、今回はどんな発見と感動があるか楽しみにしている私です。

## 作業所交流会 開催



5月29日砺波青少年自然の家にて作業所交流会を開催しました。利用者、職員あわせて総勢180名が集い、万華鏡づくりとフライングディスクに挑戦しました。

万華鏡づくりでは、色紙に絵を描いたり切り貼りし、オリジナルの万華鏡に仕上がりました。

フライングディスクでは、ゴールをねらいながら楽しく汗を流していました。

最後に全員でヨサコイを踊りみんなで盛り上がりました。



## 福祉作業所南天桐



6月9日、他の就労移行支援事業所を見学し、良い所を南天桐でも取り入れていきたいと氷見市の「はーとふる安靖」と「たまねぎcafe」を訪れました。いずれの事業所でも利用者や地域の方との関わりや、利用者の接客の様子を間近で見ることが出来、南天桐の利用者は、自分も頑張りたいと刺激を受けて帰ってきました。

はーとふる安靖のスタッフの人達が  
毎日、開店前に、  
お店の前の通りを掃除していると  
聞いてすごいなと思いました。

## 編集後記

いよいよ夏も本番。今年も最高気温の更新やゲリラ豪雨の多発といったニュースが巷をにぎわすことになるのでしょうか？また、熱中症にかかる方が年々増えているように思われます。皆さんも水分補給をこまめにされ、体調管理に十分気を付けていただき、秋には美味しいものがいっぱい食べられるよう元気にお過ごしください。(広報委員K)

## ◎今後の予定

- 7月29日(土) 旅川納涼祭(メイプル福野)
- 8月上旬 健康診断
- 8月4日(金) あけぼの&めるへん夏まつり(小矢部事業所)
- 9月28日(木) ふれあい育成スポーツ大会

# 晴天に恵まれ 初夏の行楽 行ってきました



## 共生型グループホーム らぶあけぼの



6月14日、共生型グループホームらぶあけぼのでは、1階2階の利用者と一緒に初夏の行楽に行ってきました。いつ梅雨に入るかと天気心配されましたが、絶好の行楽日和に恵まれ、兼六園散策とシェア金沢での食事を楽しみました。

ずいぶん前から楽しみにしていたため、利用者は朝からワクワクそわそわと気分が高まっている様子。身支度も早々に出掛ける準備は万端でした。

兼六園では、散策後に食べたソフトクリームが大変美味しく、みな童心に戻ったような笑顔がこぼれました。



# 地域の方々と交流しました

## 福祉作業所あけぼの第一



6月8日、福祉作業所あけぼの第一では、松沢地区菖蒲まつりに参加させていただきました。

お茶をいただいたり、手をつなぐとなみ野の歌を披露したり、松沢地区の方々との交流を深めました。



## 福祉作業所エルハート城端

5月24日、福祉作業所エルハート城端では、城端中学校2年生68名と一緒にさつま芋の植え付け作業を通じて交流を図りました。

城端中学校とは、年間を通して草刈りや芋ほり、さつま芋を使った料理実習まで一緒に行っていきます。



## 福祉作業所フレンドハウス福光

6月23日、光龍館で開催されているお茶会に参加しました。

お茶の経験のある人は、作法が上手に出来、経験のない人は、上手な人を真似ている様子が伺えました。

苦いお茶に顔をしかめる人もいましたが、甘いお茶菓子と共に美味しくいただくことができました。



## 就労継続支援B型事業所

# 就労に向けて 施設外就労に取り組んでいます！

就労に向けた支援の一環として、施設外就労に取り組んでいます。本年度は新たに施設外就労先が増え利用者の「働きたい！」の気持ちに応えていきます。

## 福祉作業所あけぼの第二

本年度から、小矢部土木事務所へ清掃作業に行っています。利用者2名と職員1名で、廊下、階段、玄関、トイレと広いエリアを任されています。

最初はトイレの数も多く大変だと感じていましたが、清掃の手順も覚え、手際よく進める事ができるようになりました。

通い始めて3ヶ月が経ち、土木事務所の職員の方が笑顔で声をかけて下さるようになり、利用者も張り切って清掃に取り組んでいます。



## 南砺事業所

本年度から、有限会社林商店にてペットボトルの選別作業を行っています。集められたたくさんのペットボトルを一つ一つキャップを外したり、ラベルが付いたものと付いていないものを選別しています。暑い日が続くと、ペットボトルの量も多くなってきましたが、利用者は、選別作業に誇りを持って取り組んでおり、「次回は私が行きたいです！」などと、進んで手を挙げてこられます。

## 福祉作業所 油田

平成28年1月から、スーパーセンターシマヤで店内の清掃や日用品等の品出しの作業を行っています。当初は利用者5人と職員1名の6名体制で始めましたが、現在では利用者8名、職員2名の体制に拡充しました。最初のころは職員の声掛けがないと作業に取り掛かれなかった利用者も、最近では自分で考えて行動できる利用者が増えてきました。毎日元気に「行ってきます！」と笑顔で向かっています。



## 福祉作業所 庄川

平成24年11月から、有限会社庄川チップ工業所で木材の加工作業を行っています。

皮のついていない木材をベルトコンベアにのせる作業をしており、その木材は、機械を通して2cm×2cmサイズの木材チップになります。

木くずが飛び散ったり、機械の音が大きかったりと大変な作業ですが、自分の仕事に責任を持って、しっかり役割を担っています。



今回ご紹介した以外にも施設外就労を行っている利用者は多くいます。また、作業所内においても下請け作業や自主製品製作など、どの作業においても誇りを持って取り組んでいます。